

# 西光寺だより

第三十一号 平成二五年 三月一日発行

三月に入り、柔らかな春の日差しがうれしい季節になりました。

つくし、なずな、ふきのとうにたんぽぽ、草花たちも待ちわびていたように顔を出し、春を運んできてくれていたようです。冬ごもりしていた虫たちもだんだんと這い出してくる頃ですね。

わたくしたち人間も、ぽかぽかとした陽気の中にと、ほっこりと良い気持ちになってきます。

「人間の豊かな生き方とは、自然に寄り添って生きていくこと」という言葉をどこかで耳にしたことがあります。

春の芽吹きに喜びを感じ、夏の夜風の涼しさを知り、秋の夕暮れを眺め、冬の寒さに暖をとる、四季を感じながら一日、一日を積み重ねていけるということは、確かに心豊かに過ごせるように思います。

平安時代の歌人、清少納言も『枕草子』においてそれぞれの四季の素晴らしさを著しています。

「春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる」という有名な一説はご存じの方も多いかと思えます。今より一千年ほど昔に書かれた随筆が、現代を生きる私たちにとっても心に残るのは、どんなに世の中が進歩してもやはり自然とともにあることを感じていないからではないでしょうか。

私たちは、つついっい人間中心に物事を見てしまいがちですが、およそ人間の手の及ばない偉大な自然の中で生命を育んでいるのです。そこでは、植物も動物も人間もすべて平等です。

束の間の時間であっても、すべてのいのちを慈しむ心で過ごせるならば、身も心も本当に穏やかになるのではないかと思います。

春の陽に包まれながら、穏やかな心を共に育んでまいりましょう。



## ◆三・四月の行事◆

・ 三月二十四日（日）

仏教婦人会総会

午前十一時三十分から追弔会（正信偈）

午後十二時～ お齋

午後一時～ 総会

西光寺本堂

・ 四月 六日（土）

春季永代経法要・追弔会

午後二時・午後七時

※なお追弔会は午後一時三十分より厳修致します。

西光寺本堂

●今月のことば●

不断難思無称光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

『正信偈』より

【現代語訳】

不断光・難思光・無称光・超日月光とたたえられる光明を放って、  
広くすべての国々を照らし、すべての衆生はその光明に照らされる。

これは、『正信偈』の中に出てくる詩句ですが、「一切の生きとし生けるものは、仏さまの光明に照らされないものはない」ということを表わしています。

不断光とは「常に照らす光」という意味です。  
阿弥陀仏の人々を救済しつづけるはたらきが、少しの休みもなく、常にはたらいてくださいることを示しています。

難思光とは「思いはかることができない光」という意味です。

阿弥陀仏の光明は、仏でなければ思いはかることができない、私たち衆生には知り尽くすことができないということを示しています。

無称光とは「説き尽くすことができず、言葉も及ばない光」という意味です。

阿弥陀仏の光明は、私たちの言葉では表現することができない、はかりしれないはたらきをいうのです。

超日月光とは「日月に超えすぐれた光」という意味です。

阿弥陀仏の光明は、太陽や月の光のはたらきを超えたすぐれた光明であることを表わしています。

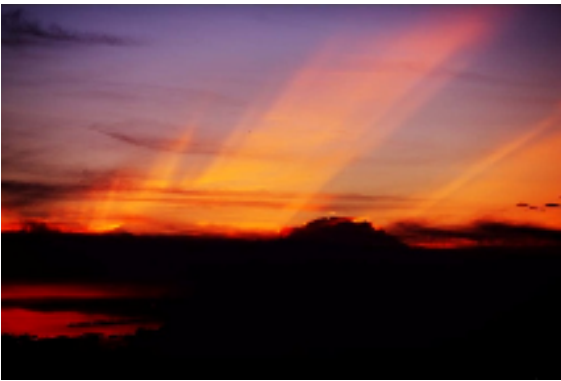
そして、『無量寿経』には、「この光明に照らされるものは、煩惱が消え去って身も心も和らぎ、喜びに満ちあふれて善い心が生まれる」と記されています。

阿弥陀仏は、私たちには知り尽くすことができないほどのお慈悲の心で、生きとし生けるものすべてを包んでくださっているのです。

仏さまのお慈悲のお心に包まれないものは何ひとつありません。

あなたも私も、動物も植物もすべてがそれぞれに皆尊い、というお心です。そうしたあなたかいかいお心で常に常に照らしてくださいるということ、私たちに説いているのです。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原二一七二二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>